

タイトル!! ゴージャスお宝鑑定家  
「うゝん、ゴージャス!」

---

## 登場人物

・ 剛田（ごうだ）… ゴージャスな品物しか鑑定しない剛田質店の店主。優雅で品があり、クセが強い。モットーは「ゴージャスたるもの優雅たれ」。口癖は「ゴージャス!」

・ 白金（しろかね）… 剛田質店の見習い鑑定士。価値観は一般人並み。剛田のやり方に振り回されるが、次第にそれを受け入れていく。神経質、心配性でお宝を大事に思う。

---

## あらすじ

ゴージャスな品物しか鑑定・買取をしない『剛田質店』。ある日、金箔まみれの料理が詰め込まれた金箔入り重箱が持ち込まれる。その料理が「ゴージャス」であるかを、剛田が石言葉を熱弁しながら鑑定し、実際に使ってみることに！果たしてどんな展開が待っているのか？そして、ゴージャスな料理が織り成す予想外のコメディイが展開される！

---

## シナリオ

### シーン一：剛田質店・店内

【店内は豪華で落ち着いた雰囲気。金箔や大理石の装飾が目を引く。剛田と白金がカウンターで話している。】

白金：（目を凝らしてカウンターの中を見る）  
「今日も、何か奇妙なものが持ち込まれそう

ですね。最近、変なものばかり見ている気がしますよ…。」

剛田…(優雅に立ち上がり、手を広げて)

「そうか？それはきっと君が、まだその“ゴージャス”を理解していないからだ。ゴージャスとは、時に奇妙で、そして大胆で、我々を驚かせるものなのだよ。」

【ボーズを決めて、思い切り手を広げる剛

田。白金は困惑した顔で見ている。】

白金…(困惑しながら)

「でも、普通のものでもよくないですか？ 毎回、ゴージャスだゴージャスだって…ちよつと気持ち悪いですよ。」

【剛田が鋭く白金を見つめる。】

剛田…(微笑んで)

「君が気持ち悪いと思うことこそが、ゴージャスな価値を持っている証だ！ゴージャスとは、凡人には理解できない、ちよつとした驚きの中

にこそ宿るのだよ。」

【田舎はじんびりしたまうにため息をこへく。】

白金：（しびしび）

「分かりませんが……。でも、今日もなんか、  
変なものが来そうな予感がしますよ。」

【その瞬間、店の扉が開き、客が現れる。大  
きな箱を抱えた女性が入ってくる。】

客：（少し緊張した様子で）

「こんにちは、剛田様……。こちらの品物、ぜひ  
鑑定していただきたくて……。」

【女性は慎重に箱をテーブルに置く。剛田が  
期待の眼差しでその箱を見つめる。】

剛田：（ゴージャスに立ち上がる）

「おお、ゴージャスなお宝をお持ちくださった  
のですね。早速、拝見いたしましょう。」

【箱が開かれると、中に金箔が散りばめられ  
た豪華な重箱が現れる。白金は驚きの声を  
あげてる。】

白金…(驚いて)

「これ…金箔が料理にまみれてる…こんな料理見たことないですけど…。」

剛田…(うっとりとした表情で)

「ゴージャスだ…これは間違いなくゴージャス！金箔の輝き、色合い、そして…この重箱！すべてが芸術品のようだ。まさに“高貴”を象徴する一品だ！」

【白金はさらに驚いているが、少し不安そうな顔をする。】

白金…(心配そうに)

「でも…これ、本当に食べて大丈夫なんですか？金箔って…食べ物としてはどうなんでしょう？？」

剛田…(優雅に笑いながら)

「もちろん、ゴージャスなものを食す時には、ただの食事ではないのだ。これは魂の満足を得るための儀式だ。君も、ゴージャスな料理

を食べるときは、覚悟を決めるべきだ。」

【白金はしばらく考え込んだ後、軽いため息を吐く。】

白金：（弱気に）

「…なるほど。でも、さすがにこの量を食べるのは…ちよっと怖いです。」

【剛田は微笑んで、料理を手取る。】

剛田：（熱弁しながら）

「さあ、君も見えていなさい。これはただの金箔の料理ではない。この料理には、“石言葉”が宿っているのだよ。」

【白金は、またあの不思議な“石言葉”という言葉を手にする。】

---

シーン2：石言葉の熱弁と実際に使う（15分）

白金…(戸惑いながら)

「石言葉…？それって、どういう意味ですか？」

剛田は料理を慎重に指さしながら説明を続ける。】

剛田…(目を輝かせながら)

「石言葉とは、石が持つ独特のエネルギーのことだ。金箔の輝きの中に宿る、この“黄金色”の石言葉は、“栄光”と“成功”を象徴している。」

白金…(驚きながら)

「え？金箔にそんな意味が…？」

剛田…(うん、うなずきながら)

「当然だ！金箔は、ただの装飾ではない。金は、古来から王権や神々に捧げられてきた。」

この金箔には、黄金の力が秘められている。これを食べることで、君は今、栄光と成功を手に入れるのだ。」

【白金は少し興奮した様子で、剛田を見つめてみる。】

白金…（驚きつつも微笑み）

「栄光と成功…うーん、確かにこれだけ豪華だと、そんな気がしてきますね。でも、この料理を本当に食べるんですね？」

剛田…（にっこりと笑って）

「もちろんだ！ゴージャスを感じるためには、食べなければならぬ。さあ、食べるんだ、白金君。」

【白金は少し躊躇した後、重箱から金箔まみれの料理を一口食べる。】

白金…（しばらく黙ってから目を見開き）

「…うーん！ゴージャス！これ、まるで夢の中で食べているみたいな味がする！」

剛田…（満足そうに）

「ゴージャスだろう？ゴージャスさを感じる時、必ず心が満たされるものだ。食べること



で、ゴージャスさが君の中に流れ込んでいく。」

【白金も笑顔になり、ななにもう一口食べる。】

白金：（目を閉じて）

「…すごい、目を閉じて食べると、味がゴージャスに感じます！」

【二人は静かに、豪華な料理を楽しんでいる。】

---

シーン3：金額とエピソード（10分）

客：（興奮気味に）

「それでは、こちらの品物の買取金額を教えてくださいませんか？」

剛田：（落ち着いた声で）

「もちろんだ。これは、ただの料理ではない。この金箔の重箱は、まさにゴージャスの象徴だ。君には、20万円で買取ろう。」

【白金は驚きながら、思わず顔を見合わせる。】

白金…（目を見開いて）

「20万円？ 本当にその金額で買い取ってくれるんですか？」

【剛田はゆっくりうなずく。】

剛田…（優雅に笑いながら）

「ゴージャスだからこそ、それにふさわしい金額をつけるんだ。君も、ゴージャスさを理解するようになったな、白金君。」

【白金は照れくさそうに笑う。】

---

エピソード…

この人は最後に残った料理を食べながら、店内に流れるゴージャスな音楽を聴く。【

白金…（しみじみと）

「やっぱり、ゴージャスってただの物じゃな

くて、心で感じるものなんですね。」

剛田…（微笑んで）

「その通りだ。ゴージャスは、物質だけではない、心で感じるものだ。さあ、君もどんどんゴージャスな男になっていくんだよ。」

【人はしばし静かに料理を味わい、ゴージャスな時間を楽しんでいく。】

---

## 尺割（約 80 分）

シーン 1: 剛田質店・店内（約 15 分）

- 目的…シナリオの導入、登場人物の性格や関係性を示す。

- 剛田と白金のやり取り…剛田のゴージャスな価値観を強調、白金の戸惑いや疑問を描く。

- **金箔入り重箱の登場**…客が登場し、金箔まみれの料理を持ち込む。

- **白金の反応**…料理の不思議さに対する驚き、剛田の熱弁に振り回される様子。

- **会話の展開**…コメディータッチで剛田が「ゴージャス」を語り、白金が戸惑いながらも徐々に引き込まれていく。

---

## シーン2: 石言葉の熱弁と実際に使う(約25分)

- ・ **目的**…ゴージャスな価値観の深堀、石言葉の説明、料理を食べるシーン。

- **石言葉の解説**…剛田が金箔料理の「石言葉」を熱弁。白金がその意味を理解し始める。

- 料理を食べるシーン… 白金が金箔料理を食べ、最初は戸惑いながらもその「ゴージャスさ」を実感する。
  - コミカルな描写… 白金が少しずつゴージャスを感じるようになる過程を、テンポ良く描写。
  - 剛田の解説… 「ゴージャスとは心で感じるものだ」という剛田の哲学を語り、白金の変化を描く。
- 

### シーン③：金額の提示とエピソード（約15分）

- ・ 目的… 金額のやり取り、コメディ的な要素と感動的なエピソードを描く。
  - 金額の提示… 料理の金額を決定し、白金が驚く場面。剛田の冷

静な対応とゴージャスな自信を  
見せる。

- エピローグ…残った料理を食べながら、ゴージャスを感じる瞬間。  
白金が「ゴージャス」の意味を理解し、感動的に締めくくる。

---

### シーン④：余韻と総括（約10分）

- 目的…最後にゴージャスな余韻を残し、  
白金の成長を感じさせる。
  - 最後の会話…白金と剛田が食後の余韻に浸りながら、ゴージャスについて語り合う。
  - 白金の気づき…ゴージャスとは、  
物や価値だけでなく、心で感じる  
ことだと気づくシーン。

。しみじみとしたフィナーレ…物語全体を  
振り返り、ゴージャスを心で感じる瞬間  
を強調。